

平成 28 年度静岡福祉大学入学式 学長式辞

新入生の皆様、ご入学、おめでとうございます。焼津市内の至るところに桜が咲き誇るこの季節、ご入学を教職員そろって歓迎いたします。共にこの日をお迎えになったご家族の方々、静岡福祉大学に、ようこそお越しくださいました。心から敬意と祝意を表します。

また本日、ここにご多用中の、焼津市長・中野弘道様をはじめ、ご来賓の方々にご臨席を賜り、入学式を挙行できますことに、教職員を代表して感謝申し上げます。

本日、めでたく静岡福祉大学に入学した学生は、2 年次 3 年次編入学を含め、福祉心理学科は 100 名、医療福祉学科は 26 名、健康福祉学科は 42 名、子ども学科は 36 名、そしてキャリアデザイン・カレッジの方は 2 名、合わせて 206 名になります。

静岡福祉大学は、平成 16 年、福祉専門職を養成する高等教育機関として開学しました。昨年度は子ども学部子ども学科が開設され、子どもから障害者、高齢者まで、「実践力のある福祉・教育専門職の養成を通じて福祉社会を実現する」という使命を果たす環境が整いました。

福祉社会とは、子育てから介護まで安心できる社会であり、年齢や性別、障害の有無にかかわらず、誰もがその能力と発達を自覚でき、そして、その能力によって豊かな人生を過ごすことが可能な社会を指します。

特に少子化対策が叫ばれる現在、若者、女性、高齢者、障害者がその能力を発揮できる環境を整えるために、介護、保育、教育を含む広い意味での「福祉」の担い手である専門職を、この地域で育てることが高等教育機関には求められています。

それに加えて現在、我が国の課題となっている地域創生という状況下で、私たちは、専門職にとどまらず、本学で学ぶ全ての若者に社会の様々な場面で活躍するだけの知識と技術を身につけていただき、世の中に送り出すという役割を担っていることはいまでもありません。

今ほど、高等教育機関が地域の社会資源として期待されている時代はありません。地方創生という枠組みにおいて、行政と大学の提携も各地で進められています。焼津市に立地する本学もまた昨年来、焼津市との包括協定を通じて、子育て支援をはじめ、多くの事業を通じた地域の活性化に寄与しています。

そうしたなかで、本学で学ぼうとする皆様にぜひお話しておきたいことがあります。それは4年間、あるいは編入した学生は2年、3年という期間を通じて、自分が主人公として登場する物語を創作して欲しいということです。

誰もが自分の人生の主役であることはいうまでもありません。誰もが、ちょうど糸を紡いでいくように、自分だけのオリジナルストーリーを完成させることができます。それは、その人にしかできない物語であり、主人公はほかの誰でもありません。自分がヒーローであり、ヒロインとなるストーリーといえるでしょう。

今日から、大学生活を始めるにあたって、自分の物語を作るんだという気持ちを忘れず、このキャンパスに自分らしい作品を描いて欲しいと願っています。本学がアットホームで、学生と教職員の距離が近い、面倒見が良い大学であることはいうまでもありません。学生一人ひとりの作品作りに対して、静岡福祉大学の全ての教職員は喜んでお手伝いします。

誰もがその人ならではの資質と能力を持っています。誰一人として、資質がない、能力がない人はいないはずです。それを個性とエネルギーと言いかえてもよいでしょう。それに気づいている人もいるし、気づいていない人もいます。しかし、教育とは学生一人ひとりが自らの資質と能力を発見するお手伝いをする、それを伸ばしていくことであると信じています。

自ら選んだ静岡福祉大学の学生として、4年間のキャンパスライフを通じて、自分の夢を発見し、4年後には強く社会に向けて羽ばたいていくという物語を完成させて欲しいと心から願っています。

本学は開学して13年目を迎える若い大学です。それだけに、206名の新入生の皆様と共に、私たちは新たな歴史を本日からさらに一日、一日と刻んでいきます。その歴史は皆様の物語であり、そして私たちの物語でもあるのです。

本日はご入学、おめでとうございます。

平成28年4月4日

静岡福祉大学 学長 太田晴康